

こほくとしょかん

江北図書館だより

<発行> 公益財団法人 江北図書館

2016(平成28)年6月1日 発行

〒529-0425 長浜市木之本町木之本 1362 ☎0749-82-4867

第13号

開館時間 午前 9:30～午後 5:00 (日曜日は午後 2 時まで) 休館日 毎週月曜と第1・3日曜祝日

第1回 江北図書館文庫フォーラム開催報告

平成28年3月26日 午後1時30分～4時 於 木之本公民館

評議員 河下 太勇

雪の少なかった冬を越したものの、桜の便りにはまだ少し間のある3月26日土曜日の午後、「江北図書館の文化的財産をめぐって」と題した初めての江北図書館文庫フォーラムが、長浜市北部振興局内にある木之本公民館3階の会議室で開かれました。

すでにこれまでの便りでも紹介してきましたように、現在、図書館の貴重な史資料は、滋賀大学経済学部の総合研究棟<土魂商才館>に保管されています。その江北図書館の史資料の保存・公開・活用のあり方を検討し、地域研究を進めるため、サントリー文化財団の助成を受けて「江北図書館資料研究会」が発足して、約1年。今回はこれまでの研究活動の成果をもとに、私たち湖北の財産が、今どうなっているのかを地元の皆さんにお知らせしようという趣旨で、この「江北図書館文庫フォーラム」を企画しました。

会は、研究会の座長でもある、筒井正夫滋賀大学経済学部教授の進行によって進められ、最初に江北図書館の富田光彦理事長が、これまでの経緯や研究会の活動の概略を説明しました。続いて、研究会のメンバー、久岡道武氏が「受け継がれる図書館資料」と題して、

実際に書籍や資料を手にとって整理したものでなければわからないエピソードなども交えながら、画像を用いてわかり易く解説しました。特に旧伊香郡役所の、議会・財政・統計から軍事・教育に至るまでの多岐にわたる膨大な史資料、明治14年相互扶助組織として設立した伊香相救社に関わる文書、伊香郡志編纂に関わって残された多くの資料は、この地域独自のものでありながら、普遍性を持つ、全国



的にも稀有な資料であることが示されました。その価値を再認識すると同時に、これまで、長年暗い書庫の奥に眠っていた史資料が、地元の皆さんに初めてお披露目された貴重な機会となりました。資料のデジタル化も進み、活用の可能性が広がっていることもわかりました。

後半は、富田理事長、三家多賀成評議員、河下太勇評議員、木全清博元滋賀大学教授らの研究会メンバーが、パネリストとなって、それぞれの思いや研究課題などを述べ、会場の参加者と質疑応答をしました。パネリストの一人には、日本図書館協会の前理事長、塩見昇大阪教育大名誉教授も加わり、江北図書館の成立やその歴史の稀少性について意見を述べられました。参加者からも、どれくらいの資料が図書館に残っているのかという質問や、今後の図書館のあり方についての建設的な意見が出されました。また、中日新聞岐阜支局の三品信報道部次長も県外からわざわざ足を運んで、江北図書館の持つ魅力を語ってくださいました。これらの質疑を通して、展示やネットなどを利用した、皆さんへの情報発信の必要性を感じました。

最初に私財を投じて図書館を作った杉野氏の志、それを今日まで守り続けた地域の人々、伊香相救社という、全国的にも珍しい相互扶助組織の設立などからは、この土地独特の伝統的な高い市民性が感じられます。この点を様々な角度から、掘り下げて研究することで、今後地域が生きてゆく方向性が見えてくるのではないかと考えます。そのような視点からも、史資料を分析し、活動の幅をひろげて、第2回のフォーラムにつなげてゆくことができると願います。今後益々のご協力をお願いして、今回のご報告とします。ご参加いただきました35名の皆様ありがとうございました。

《宇宙流星「隕石」&太古のロマン「恐竜化石」》展を開催！

副理事長 藤原 哲男

3月25日（金）から4月6日（水）まで休館日を除く10日間に亘って「隕石」と「恐竜化石」展を開催しました。「隕石」は5種類13点、「恐竜化石」は25種類33点で、大阪府枚方市の収集家井上豊氏より全面的な支援のもとで実現できました。

訪れた子供たちは勿論のこと、付添いの大人たちも「隕石」に初めて触れることができたので、「宇宙の神秘を少し感じ取れた」と、感慨深げでした。

「恐竜化石」は化石を見たり準備しておいた関係図書や図鑑を開いて恐竜本体の大きさを想像して、恐竜が生活していた太古の時代に思いを描いていました。4月1日に新聞で紹介されると来館者は



ぐっと増え、4月2日（土）は最高の40名となり活況を呈しました。中には恐竜博士なる超物知りの小学生がいて、私達に詳しく詳しく話をしてくれました。

準備しておきました感想ノートを見てみますと、「隕石」に初めて触れることができた

喜び、恐竜の歯や背骨の化石が思っていたほど大きくないことに驚き、自分の知っているだけの恐竜名を記入するなどさまざまな印象を記入してくれました。

この展示会では子供たちの知識欲向上を図ろうと企画しました。期待通り、子供たちは化石の実物と関連図鑑を見比べたり、ルーペで拡大したりして知識の輪を広げていました。近隣では初めてのミニ博物館でしたので関心の高さが伺えました。10 日の間来館者数は大人 135 人子供 62 人の 197 名でした。1 日平均 20 名となりました。開催中は説明や保安にご協力いただいた伊香高等学校科学部並びにサウンド会の皆様にお礼申し上げます。

平成28年度の活動に向けて-----地道で粘り強く

理事 丹治 健一

J R 木ノ本駅前昭和の匂いのする江北図書館は、公立図書館や学校図書館とはちょっと違うので覗いてみよう、と遠来の来館者も増えています。新刊本だけでなく、昭和や大正・明治の図書もたくさんそろえています。子どもたちの本もたくさんそろえています。皆様の来館をお待ちしています。特に通勤通学の時間待ちの方、高校生諸君の来館を待っています。

ところで、当館は知る人ぞ知る貴重な書物を数多く所蔵していますが、残念なことに皆様に気軽に読んでいただくことができません。例えば当館だけが所蔵する明治時代以前の書物といった、もはや研究対象というべき書物なのです。このため、未長く良好な状態で保存するとともに研究に活用すべく、滋賀大学<士魂商才館>に「江北図書館文庫」として平成27年度中に移管を終え、安全に保管をしてもらうとともに、研究活動も開始しました。



このように、江北図書館は、地域の図書館として皆様のリクエストにこたえること、未来を担う児童生徒に読書の喜びを知ってもらい知識欲を養ってもらうことのほか所蔵図書による研究活動にと幅広く努力を重ねていくことを求められています。

そこで、皆さまに江北図書館をこれまで以上に利用していただけるよう、又研究活動に携わっていただけるよう努力してまいります。

- 1 『江北図書館だより』（年間3～4回発刊）で図書館の今や研究報告をします。
- 2 テーマ展などを開催し江北図書館の魅力を発信します。
- 3 読書会や読書相談で深みある読書展開をサポートします。
- 4 読書感想文指導で作文力をサポートします。
- 5 「江北図書館文庫」（滋賀大学移管）による研究活動で地元旧伊香郡の文化を発掘します。

ところで、江北図書館は、郷土の先人（杉野文彌氏）が郷土の若人の勉学の学びのためにと明治時代に設立した私立図書館です。そしてこの江北図書館で多くの先輩たちが学び

育ちました。私たちはこの先人や先輩たちを思い、これからも江北図書館を守り育ててまいりたいと思っています。



しかしながら、私立図書館のため公費助成はなく、今の収入でまかないきれないのが現状で、このため、一年間を通して寄附を募っています。図書購入のため、研究活動のためなど用途は限りありません。どうぞご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。又、JR木ノ本駅前に当館管理の月極有料駐車場があり、通勤通学にとっても便利です。ご用命は、当館でよろしくお願いいたします。

《お詫び》

ご寄附をいただきまして誠にありがとうございます。前号で寄附者の一覧を掲載しましたが、抜けていたり間違いがありましたこととお詫び申し上げます。誤りがありました方のご氏名は下記の通りです。大変失礼しました。

磯部雄彦 岩崎博論 岩本裕子 梅本信幸 小川美智男 奥村伸司 川合行雄 小海 正
鈴木正夫 田神弥太郎 武友博次 辻 政雄 中嶋孝明 橋本善輝 林 伊和男 廣部平明
眞壁四郎 山岡芳治 弓削林一 (敬称略)

新着本のお知らせ

新刊

書 名	著 者	出 版 社
『滋賀の教育史』	木全清博	文理閣
『菅浦文書が語る民衆の歴史』	長浜市長浜城歴史博物館	サンライズ出版
『信長がみた近江：『信長公記』を歩く』	大沼芳幸	サンライズ出版
『滋賀あるある』	平井一也	T0 ブックス
『あなたの知らない滋賀の歴史』	山本博文	洋泉社

寄贈本

書 名	著 者	出 版 社 (寄贈者)
『昭和天皇実録』全 18 巻 (発刊中)	宮内庁	東京書籍 (中澤成晃)
『読売報道写真集』1973～1997 まで	読売新聞社編	読売新聞社 (井上 豊)
『朝日新聞の重要紙面で見ると』1976～1998 まで	朝日新聞社編	朝日新聞社 (井上 豊)

(敬称略)